

◆授業設計のポイント◆

- ・ 感じ取る段階（鑑賞の活動）における見取りの工夫
- ・ 見取ったことを指導に生かす工夫

美術科学習指導案

学 級 2 年 1 組（男子19名 女子17名 計36名）

場 所 第 1 美 術 室（3 年 校 舎 3 階）

授業者 教 諭 吉 留 雅 樹

1 題 材 「名探偵美術館」（絵画鑑賞）

2 題材について

本題材は、シャガールの名画「彼女をめぐって」を様々な視点から鑑賞し、題名を推理していく授業である。この絵画には、玉乗りの曲芸師や顔が逆さまになった男性、涙を流す女性、空を漂う新郎新婦など、様々なモチーフが色彩豊かに描かれている。この色彩の詩人といわれたシャガールの神秘的で創造的な作品は、生徒の鑑賞に対する興味・関心を十分に喚起するものと思われる。そして、絵画から感じられる作者の心情や意図、創造的な表現が、題名とどのように結びついているかを推理していくことで、ただ名画を分析批評していくだけの授業に比べて、生徒はより知的好奇心や興味が刺激され、名画に対して親しみをもち、より深く味わえるものと考えた。また、鑑賞学習において、感じたことをまとめたり、発表したりする学習が苦手な生徒も、言葉では表現しづらいイメージや感覚を題名として表現する作業なら取り組みやすくなり、絵画鑑賞の楽しさや面白さに改めて気づき、自分の中に少しでも新しい価値をつくりだすことができるのではないかと考えた。

本校2年生は、これまで夏休み課題の美術館鑑賞や日頃の作品制作を通して、鑑賞の学習は適宜行ってきた。その際、「鑑賞の手引き」（鑑賞学習における様々な要点を本校独自でまとめたもの）を活用するなどの工夫も入れ、気付いたことや感じたことを自分の言葉でまとめたり、人前で発表したりすることができる生徒は増えてきている。しかし、なんとなく感じるといった曖昧な発言が多く、しっかりとした根拠をもって答えている生徒は少ない。また、相手の考えや発言に対して、質問したり批評したりする討論的言語活動も不十分である。それは、当然その段階の学習や訓練が不足していることが大きな要因であるが、美術に対する価値意識が十分に育っていないために、自分の感じ方や考え方に自信がもてないことも要因であろう。

指導にあたっては、題名を推理していく過程で、絵画を細かく分析する際の手立てとして、「絵画マッピング」（ワークシートに印刷された絵画に直接マッピングを行い、段階的に考察していく本校独自の取組）を行う。そこで、①気付いたこと、②気付いたことを基に分析したこと、③分析したことを基にそれらの関連や作者の思いなどを感じ取ったこと、という三段階で生徒に考察させる。そして、それを教師が段階的に見取り、「鑑賞の手引き」などを活用して指導を行うことで、ただなんとなく感じたり考えたりしていたことに、しっかりとした根拠をもたせたい。また、それについて他者と話し合い、批評し合うことは、自分なりの価値観を再確認し、他者の考えに触れ、自分の視野を広げる力を身に付けることにもつながる考え、本題材を設定した。

3 題材の目標

- (1) 主体的に鑑賞の活動に取り組み、作品の中によさや美しさなどを感じ取ることができる。

(感心・意欲・態度)

(2) 作者の心情や表現の工夫を感じ取り、作品の見方の幅を広げて表現の多様性を理解することができる。

(鑑賞の能力)

(3) 自分の価値意識をもって作品を鑑賞し、作品や作者に対する考えを説明・批評し合うなどして、自分の思いを言葉で表現する力や共感する力を高めることができる。

(鑑賞の能力)

4 題材の指導計画（全1時間）

題 材	時 間	学 習 内 容
「名探偵美術館」 ～名画のよさや美しさを探り、 題名を推理しよう～	1 (本時)	・ 名画を分析し、題名を推理する。 ・ 分析したことをお互いに言葉で説明・批評し合う。 ・ 絵画鑑賞の仕方を学ぶ。

5 題材における評価規準

関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	鑑 賞 の 能 力
・ 真剣に絵画鑑賞に取り組み、作品の中によさや美しさなどを感じ取ろうとしている。	・ 自分の感じたことを大切にして、見方や考え方を確かめながら絵画鑑賞を味わっている。 ・ 自分の感じたことを他者に伝えたり、他者の見方を知ったりして共感合っている。

6 本時の実際（1／1）

(1) 題 材 「名探偵美術館」

(2) 目 標 （上記「3 題材の目標」に同じ）

(3) 授業設計の工夫

ア 感じ取る段階（鑑賞の活動）における見取りの工夫 研究の視点3(2)

鑑賞学習に「絵画マッピング」を取り入れ、色分けして記入させることで鑑賞の活動を段階的に見取る。

【判断基準】

評 価 規 準		
自分の感じたことを大切にして、見方や考え方を確かめながら絵画鑑賞を味わっている。		
判 断 の 対 象		
絵画マッピングの記述内容		
尺 度	判 断 基 準	判断基準をもとにした生徒への指導
B	絵画マッピングにおいて、「第一段階」気付いたこと（鉛筆記入）を基に、分析したことや感想を赤ペンで記入している。（「第二段階」が書けている）	【C状況の生徒】 1 「第一段階」気付き（鉛筆記入）が書けない生徒 ① 自作資料「作品の見方」を参照させる。 2 「第二段階」分析・感想（赤ペン記入）が書けない生徒 ① 状況に応じて全体や個別でアドバイスする。 ② 分析や感想が書けていない箇所を共通事項で分類し、それに応じた自作資料を参照させる。 ・ 全体的→資料「鑑賞のポイント」 ・ 色彩→資料「色が与えるイメージ」 ・ 構図・対象物等→資料「発表の仕方」など
	【予想される生徒の表現例】 ・ 泣いた女性→悲しいことがあった ・ 鳩→平和 ・ ロウソクの炎→あたたかみ、希望 ・ 逆さまの顔→不思議、悩み	

A	(Bに加えて) さらなる発想として、分析・感想を基に、それらの関連や作者の思いなどを考え青ペンで記入している。(「第三段階」が書けている)	【B状況の生徒への手立て】 - 作者の表現したいことは何かを考えさせる。 - 分析結果や感想から関連性があるものはないか考えさせる。
---	---	--

イ 見取ったことを指導に生かす工夫 **【研究の視点3(3)】**

「絵画マッピング」の色分けで、段階的に見取ったことを基にアドバイスしたり、参考資料を提示したりしていく。

(3) 展 開

学習過程	時間	形態	主な学習活動	○指導上の留意点 ※授業設計の工夫	◎評価
導 入	3分	一斉	1 黒板に提示された絵画を見て、感じたことを発表する。	○ 第一印象（イメージや特徴など）を簡単に発表させる。 ・ 5つの題名を提示する。 ○ 学習の見通しをもたせる。	
	1分	一斉	2 本時の学習目標を確認する。		
～名画のよさや美しさを探り、題名を推理しよう～					
展 開	1分	個	3 題名を推理する。(第一次)	○ 第一印象から簡単に題名を判定させる。 ・ 手元に絵画カードを配る。 ○ 題名が決まったら、黒板の題名の下に、ネームプレートを貼らせる。 ・ 列ごとに貼らせる。 ・ 周りに感わされないように注意を促す。 ○ 鑑賞の視点（共通事項を基にした3つの視点）を基に、ワークシートに印刷された絵画に直接マッピングを行わせ、段階的に考察させる。 ◎ 真剣に絵画鑑賞に取り組み、作品の中によさや美しさなどを感じ取ろうとしている。 ◎ 自分の感じたことを大切にして、見方や考え方を確かめながら絵画鑑賞を味わっている。 ※ 鑑賞学習に「絵画マッピング」を取り入れ、色分けして記入させることで鑑賞の活動を段階的に見取る。(判断基準の活用)	
	2分	一斉	4 ネームプレートを貼る。		
	18分	個	5 「絵画マッピング」を通して作品分析を行う。 鑑賞の視点 ・ 特徴や構図はどうか ・ 何が描かれているか ・ 何色で表現されているか		
第一段階…気付いたこと (鉛筆で記入させる) (C状況としての手立て) 第二段階…気付いたことを基に分析したこと (赤ペンで記入させる) (B状況としての手立て) 第三段階…分析したことを基にそれらの関連や作者の思いなどを感じ取ったこと (青ペンで記入させる) (A状況としての手立て)					

展 開	1分	個	6 題名を推理する。(第二次)	※ 「絵画マッピング」の色分けで、段階的に見取ったことを基に効果的にアドバイスしたり、参考資料を提示したりしていく。
	8分	グループ	7 グループで話し合う。	○ 「絵画マッピング」による考察を基に、題名の第二次判定を行わせる。 ・ ここでは、ネームプレートは移動させない。
	4分	一斉	8 全体で話し合い・討論をする。	○ グループをつくらせ、グループワークシート（作品と5つの題名が印刷されたもの）を配布し、題名の下に自分の名前を書いた付箋紙を貼らせてから話し合いをさせる。 ◎ 自分の感じたことを他者に伝えたり、他者の見方を知ったりして共感し合っている。
	1分	個	9 題名を推理する。(最終)	○ グループでの話し合いを基に、全体でそれぞれの考えや疑問点、質問や意見などを出し合い、討論させる。 ・ 多くの意見が出るように導く。
	1分	一斉	10 黒板のネームプレートを最終移動する。	◎ 自分の感じたことを他者に伝えたり、他者の見方を知ったりして共感し合っている。
	5分	一斉	11 実際の題名と解説を聞く。	○ グループでの話し合いと全体討論を基に、題名の最終判定を出させる。 ・ 自分の考えを大切にし、周りに惑わされないよう注意を促す。
ま と め	4分	個	12 本時を振り返り、感想をワークシートに記入する。	○ それぞれの価値感に気付かせる。
	1分	一斉	13 本時のまとめを聞く。	○ 作者「シャガール」がなぜこの絵画を描いたのかについて細かな解説を行う。 ・ 自分の出した題名と、実際の題名が異なっていたとしても、そのことは重要ではなく、絵画をしっかり分析し、自分なりの価値意識をもって題名をイメージしたことに意味があることを告げる。